

規格外野菜 社員食堂に活用

福祉事業所が自然栽培で生産



「とものわ」の野菜を使って食堂で提供された料理
＝豊田市のトヨタテクニカルディベロップメントで

トヨタ系会社今夏から

地域の福祉事業所「とものわ」が生産する規格外の自然栽培野菜を仕入れ、社員食堂に活用する取り組みが、今夏から豊田市花本町にあるトヨタ自動車の子会社「トヨタテクニカルディベロップメント」で始まった。今月からは親会社のトヨタ自動車やトヨタ紡織にも活用先が広がっている。

(服部 桃)

とものわでは、農薬や化学肥料を使わない自然栽培で野菜を作っている。このうち規格外として廃棄されていた野菜を、トヨタテクニカルディベロップメントが社員食堂の運営会社と連携して仕入れ、調理してもらい、七月から食堂で提供が始まった。

とものわ産に切り替わった。他の野菜は季節によって仕入れ状況が変わるため、それに応じて開発されたメニューが登場することもある。八月三十日には、旬のトマトに合せてトマトカレーや鶏肉のトマト味噌焼きがメニュー表に並んだ。

規格外野菜の活用先をもっと広げていきたい」と話した。

同社は二〇〇六年に設立。

一六年に再編され、現在は知的財産関係の業務やシミュレーション、計測技術などを手がける。近年は「地域の一員」として社屋のある猿投地区での地域貢献に力を入れてきた。

市場に出ない地区特産物の毛毛を食堂で提供するなど、食品ロス削減の取り組みはこれまでであった。その上で、さらに地域貢献の道を探して猿投支所を訪ね、とものわの自然栽培野菜を知った。

田中正浩コーポレート企画グループ長(左)は「お互いにウィン・ウィン(共存共栄)の形で地域貢献できれば、(規格外野菜の活用先をもっと広げていきたい)」と話した。

【参考】

この記事は、株式会社中日新聞社に当社ホームページ上での閲覧限定の許可を得て掲載しています。転写・複写は厳禁とします。